

フルコスト主義のすすめ

全国グラビア協同組合連合会

会長 田口 薫



会社は単純に言えば、良い仕事を沢山して自己成長しながら、社員が幸せな生活を送ることができる収入を実現するとも言える。それを実現、継続していくには何が 필요한のか。どのような経営指針があればいいのか考えていきたい。

当業界の設備投資について見てみると、国内約 1,500 台のグラビア印刷機がありながら、更新需要は年 15 ～ 20 台のみだ。全部入れ替えるのに 70 年、100 年とありえない時間がかかる計算だ。実際はどうなるのか？ これからどんなことが起きるのか？ 各機械の年齢はどうか？ 10 歳、20 歳、30 歳、40 歳、50 歳、さすがに 60 歳の老朽機は皆無だろう。しかし、50 歳はあり得る。最近廃止したとか、まだ 1 ～ 2 色なら使っているという。自分の会社でも 1976 年の機械を 2020 年まで 45 年も使っていた。もっとも大改造で乾燥機とテンションコントローラーを新規交換したが、いまだ昭和の印刷機も動いている。これもオーバーホールを途中でやっている。

最近、利益が出ないのでメンテナンスコストを削っているという話を方々で聞く。それで正常な生産ができればよいが、不良が出て返品が増える。もっと悪いことに中身メーカーが問題視して工場の立ち入り検査を行い、衛生レベルについて不合格としたという話を聞いた。機械・建物ともに 40 年以上らしい。確かにメンテコストは高い。出張費を 1 日何万円も取る。少しのことでも 50 万円、100 万円と上限知らずで経営側としては辛い。つい何とかしろ、うまく使えで、だましだましになった結果だろう。しかし他人事ではない。完全に設備の老朽化で機能不全に陥っている企業が今も相当数あると思う。会社、工場を運営、維持するコストは多岐にわたる。環境対策もあるが、最低賃金の引き上げによる人件費の増加、諸物価の高騰などについていけない企業が数多く出てくると活動を停止することも十分考えられる。倒産も廃業も増えてくると思われる。

ここ数年、当業界は「臭いものには蓋」で、あえて忘れ去り、問題を直視せず、価格転嫁が遅れ、試みたとしても上げ幅は僅かで企業の色々な部分にしわ寄せしながら、なんとか運営していたのだ。

3年程前、軟包装衛生協議会(軟衛協)の常任理事会でもこのようなことを報告し、警鐘を鳴らした。安値受注によって経営が傾き、不衛生な工場が出る可能性は大であり、人々の口に入る食品・医薬品について不祥事が出ると軟衛協の存在意義が問われる。現在の170程の認定工場数でなく、全工場認定するように目標設定の底上げを図ろうと提案した。異物、虫などの混入事故防止のためには、そのコストを料金に織り込むこと、自腹でなんでもやるという考え方では企業、業界が成り立たなくなる。大きなリーダーシップを発揮して企業運営の全てのコストを原価に織り込む考え方を進めて、競争よりも持続性第一を掲げばサプライヤー消滅の危機を乗り越えることができる。

実は「フルコスト主義」を唱えて、再生を成し遂げた業界がある。段ボール業界だ。レンゴー(株)代表取締役会長兼CEOの大坪 清氏が住友商事(株)からレンゴーのトップに就任された時、業界は安売り競争で真っ暗闇、あまたの企業が存続を断念するような状況だった。私事だが、叔父の会社も段ボール中堅の1つだったが廃業したのだ。当社の社員の中にも段ボール工場を閉じたからどこか勤める先をといってお入社した方もいる。

「フルコスト」とは読んで字の通り、会社のコストを原価に含むことだ。例えば社員旅行、忘年会、レクリエーションなどの福利厚生予算までコストに入れる。当然、修繕費も含まれる。今、苦しい会社はそうやって継続コストを計算した上で見積もりを立てる。今のように強い会社が残し、弱い会社が滅びるではサプライチェーンは切れてしまう。

町工場の典型のスリット、製袋業では廃業が続いている。どんな工場でも止めてしまうと困るのは発注側だ。その仕事をどこかに回そうとしても、加工賃が30～40年前のままというあきれた話がいくらでもある。各社談合すれば摘発されると言って組合に参加しない傾向もある。組合が談合するところと早合点されているようだ。コスト計算を確立し、皆で学ぶことは必要なことだ。当業界が積極的に企業存続第一で進んでいくよう切に願っている。

<メンテナンスコスト例>

売上5億円なら5%の2,500万円を、10億円なら5,000万円をというように修繕費に充てる。もし、それより低ければその部分を値上げする。また、メンテ予算がゼロなら、売価を5%上げる。給与や福利厚生や設備投資の捻出のためだ。印刷機を最長30年で交換するなら、機械代を4億円/30年=約1,300万円と計算される。

GP 認定制度申請についてのお願い

淀川加工印刷がGP認定取得



全国グラビア協同組合連合会

平成20年よりグリーンプリンティング（GP）認定制度の受付（グラビアは第7回より開始）が始まっています。9月25日に開催された第80回GP工場認定委員会において、**淀川加工印刷株式会社**が新たにGP認定を取得しました。それにより、グラビア印刷部門のGP認定工場数は**70事業所**となりました。

GP認定の取得によって、VOC排出削減、CO₂の排出削減等の「環境保全」「省エネ・省資源」と「安全・安心」の確約をし、差別化が進む社会に対応し長期不況の厳しい中で勝ち残る最大の武器になると考えます。現在「日印産連」においてGPの周知活動が行われ、社会的な認知向上が進んでおります。

毎月「日印産連」において説明会が開催されております。この機会を逃さず参加されることを望みます。なお、グリーンプリンティング認定制度に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館8階

日印産連グリーンプリンティング認定事務局

(TEL: 03-3553-6123 FAX: 03-3553-6079 E-mail: gp-nintei@jfpi.or.jp web: <http://www.jfpi.or.jp/>)

※なお、GPマークが軟包装グラビア印刷製品（袋等）に表示が出来るようになりました。

「グリーンプリンティング（GP）マーク製品表示の手引き」をご参照願います。

【GP 制度概要説明会開催について】

- 毎月原則2日開催
- 参加費無料
- GP制度と申請方法を分かりやすく説明
GP認定制度の概要、GP認定取得、GPマーク表示のメリット、GP申請方法の概要等
- 当日、ガイドラインをお渡しします。
- GP申請を希望する方で、まだガイドライン等を読んでいない方はこちらに参加の上、下記申請書作成説明会にご参加下さい。
- 各印刷部門共通です。
- 印刷業界内外問わず誰でも参加できます。
- 参加希望者は事務局にお申込み下さい。

11月4日(火) 15:00～16:30 Zoom開催

【GP 申請書作成説明会開催について】

- 毎月原則20日開催
- 参加費無料
- 申請に必要な次の内容を具体的に説明
GP申請書の書き方
添付書類作成方法
現地審査の内容等
- チェックシート記入の上、ご参加下さい。もちろん、不完全でかまいません。
- 参加希望者は事務局にお申込み下さい。

【グラビア印刷部門】

10月21日(火) 10:00～12:00 Zoom開催

11月20日(木) 13:00～15:00 Zoom開催

GP JAPAN

全グラ情報

2025年10月号 No.299 全国グラビア協同組合連合会

今月の表紙



関西グラビア協同組合青年部主催の「第4回青年部全国大会 in 関西」が9月12日～13日に開催され、関東、東海、北陸、九州、関西の組合青年部より総勢80名が参加。有馬温泉での全国大会や大阪・関西万博の見学が行われた。詳細は14～17頁参照

CONTENTS

巻頭言 フルコスト主義のすすめ..... ①

全国グラビア協同組合連合会 会長 田口 薫

GP 認定制度申請についてのお願い ③

淀川加工印刷が GP 認定取得

全グラ

全国グラビア協同組合連合会・関東グラビア協同組合合同理事会：来年の全グラ総会は北海道で開催 ⑥

(一社) 日本印刷産業連合会：日印産連表彰に母里圭太郎副理事長と山口圭介氏、「2025 年 9 月印刷の月」記念式典・懇親会 ⑨

組員・単組の近況 ⑭

関西グラビア協同組合青年部：第4回青年部全国大会 in 関西を開催

報告者：OPI(株) 竹口誠太郎

新会員プロフィール ⑱

業界発展と環境負荷低減へ、挑戦を続ける DANGAN フィルム

報告者：DANGAN フィルム(株) フィルム開発部 多田直子

講演会抄録 ㉑

2025年9月印刷の月、講演会に京極夏彦氏が登壇

酒は永遠の友 vol.9 田口 薫 22

Data Watch 2025年6月 24

紙・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷 2025年7月 ... 30

業界information 34

印刷インキ工業会：NL規制 Q&A

CLOMA、「CLOMA フォーラム2025」、10月16日にハイブリッド
開催 48

Information

DICグラフィックス、「DIC カラーガイド フランスの伝統色」第7版を発売 45

GPJAPAN は全国グラビア協同組合連合会が
発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで
15,000 円＋税です。

購読および広告出稿を希望される方は、
全国グラビア協同組合連合会まで。
e-mail : zenkoku-grv@jfpi.or.jp



発行：2025 年 10 月 10 日

発行人：田口 薫（全国グラビア協同組合連合会会長）

発行所：全国グラビア協同組合連合会

〒130-0002 東京都墨田区業平1-21-9

あさひ墨田ビル

TEL.03-3623-4046、FAX.03-3622-1814

編集スタッフ：下田幸二（全国グラビア協同組合連合会専務理事）

酒井由香（同）

編集協力：(株)加工技術研究会

印刷：(株)DI Palette

© 全国グラビア協同組合連合会 2025

落丁・乱丁はお取り替えます。GPJAPAN の無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、
禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。

全国グラビア協同組合連合会・関東グラビア協同組合合同理事会

来年の全グラ総会は北海道で開催

全国グラビア協同組合連合会（田口 薫会長）と関東グラビア協同組合（吉原宗彦理事長）は、2025年9月11日（木）午後12時35分～3時まで、東京・ホテルニューオータニ「AZALEA」において合同理事会を開催した。当日の出席者は、全グラから顧問3名を含む22名、関東グラビア協組からは4名の計26名が出席した。

事業継続のために全コストを価格に反映



田口会長

冒頭、田口 薫会長は、老朽化が進む当業界では、40年以上機械を使い続けている企業やメンテナンス費用を削る企業も多く廃業や安全リスクを高めているが、衛生基準を守り事業の持続性を確保するためには、メンテナンスや買い替え費用、福利厚生費などの全コストを価格に反映する「フルコスト主義」（今月号の巻頭言を参照）の導入が必要だと訴えた。

続いて、若狭博徳副理事長（北海道グラビア印刷協同組合）より、2026年6月11日（木）、12日（金）に北海道で開催される全グラ総会について説明があった。それによると、11

日は札幌グランドホテルにて総会・合同理事会・懇親会、12日はゴルフ（ザ・ノースカントリーゴルフクラブ）と観光（ニッカウヰスキー余市蒸留所、小樽市内など）とのこと。

また、関東グラビア協同組合の吉原宗彦理事長は9月2日（火）に経済産業省文化創造産業課を訪問したことを報告。「新室長と課長補佐様に挨拶をし、日本の食品包装の印刷はグラビアがほとんどだということに興味を示していただいたので、また工場見学をしていただき、さらに理解を深めてもらいたいと考えている」。



来年の総会の説明をする若狭副理事長

「2025年9月印刷の月」日印産連表彰

出席理事からの単組の報告に続いて、下田幸二専務理事より、「2025年9月印刷の月」



日印産連表彰受賞についてコメントする母里副理事長

日印産連表彰について、全グラからは印刷功労賞に母里圭太郎副理事長（九州グラビア協同組合）、印刷振興賞に山口圭介氏（富士特殊紙業㈱）が表彰されることが告げられた。母里副理事長は「九州グラビア協組の理事長を務めているが周りに助けてもらっている。九州グラビアの風通し良さを今後大事にしていきたい。ありがとうございます」と述べ、理事一同から拍手が贈られた。

GP 環境大賞等の表彰式等

グリーンプリンティング (GP) 環境大賞 3 賞の受賞企業、および 10 月 15 日 (水) に東京・神保町の出版クラブホールにて開催される表彰式について山下雅稔理事より報告があった。今年度は GP 環境大賞一般印刷の部で㈱教育芸術社が大賞を初受賞。「教科書を手がける会社で、教科書にも GP マークが付与されるようになった」。また、GP マーク普及大賞ゴールドプライズを受賞した㈱北四国グラビア印刷は「マーク表示件数、総数が圧倒的」であったとのこと。なお、同賞グラビア・シール・スクリーン印刷部門において、㈱巧芸社が大賞、賀谷セロファン㈱が準大賞を受賞した。一方で、ここ数年は受賞企業が固定化している感もあり、「受賞企業の顔ぶれが変わることで GP 認定制度が活性化されるのではないか。GP 認定工場の皆様には今まで以上にマーク表示協力をお願いしたい」と呼び掛けた。

特定技能外国人受入れ事業実施法人登録

下田専務理事より、(一社) 工業製品製造技能人材機 (JAIM) が特定技能外国人受入事業実施法人として経済産業大臣の登録を受けたことから、6 月 30 日 (月)、登録書手交式および JAIM 発足式が行われ、田口会長が出席したとの報告があった。

外国人育成就労制度移行について

松本 太顧問より、現在の技能実習制度から移行となる外国人育成就労制度の利用にあたり、現時点で変更の可能性がある点として、①育成就労制度利用の条件は全グラ会員であること、②現在、全グラが実施しているグラビア印刷作業チェックリスト、作業環境測定結果報告書、有機溶剤等健康診断結果報告書、その他（衛生管理者／産業医選任など）の確認作業の廃止、③現在の外国人技能実習機構は外国人育成就労機構へ改組、があると

の説明があった。そのため、各単組にて組合加入規約を再度見直すなどしてほしいとした。

取適法、パートナーシップ構築宣言等について



安永副理事長

下田専務理事から決算報告書書式変更、パートナーシップ構築宣言の状況などについて、安永研二副理事長から「製造委託等に係る中小受託事業者に対する代金の支払の遅延等の防止に関する法律」（略称：中小受託取引適正化法、通称：取適法）、日印産連環境表彰制度などについて報告、説明があった。

最後に、袖山高明顧問が9月30日をもって退職されることを受け、「今は亡き村田英雄前専務理事に指導してもらい、ここにいる多くの



袖山顧問

経営者の皆様に助けられ、今日まで務めさせていただいた。コロナ禍真っ最中、海洋プラ・環境問題、異常過剰品質問題、人材不足の深刻化等、問題が山積みの中、優れた経営者の方々から多くのことを学んだ。また、田口会長がよくお話されている組合のありがたさを学ばせてもらい、少しでも皆様のお役に立つことができているのであれば幸いだ。ありがとうございます」と挨拶し、これまで全グラ・関グラ専務理事、特定技能制度担当顧問としてご尽力をいただいた感謝を込めて拍手を贈った。



左から、今年度より全グラ副理事長に就任した高桑真樹氏（関西グラビア協同組合理事長）、同理事に就任した田中規貴氏（同副理事長）、賀谷壮佑氏（北陸グラビア協同組合理事）

日本印刷産業連合会

日印産連表彰に母里圭太郎副理事長と山口圭介氏 「2025 年 9 月印刷の月」 記念式典・懇親会

（一社）日本印刷産業連合会（日印産連）の「2025 年 9 月印刷の月」記念式典・懇親会が、2025 年 9 月 11 日（木）午後 4 時 45 分より、東京・ホテルニューオータニ「鶴の間」において開催し、日印産連傘下 10 団体の会員、来賓、業界関係者 451 名が参集した。式典では、長年にわたり、印刷産業の発展に貢献した個人・団体に対して顕彰する「日印産連表彰」にて、全国グラビア協同組合連合会の母里圭太郎副理事長（株）平野屋物産）と富士特殊紙業（株）の山口圭介常務取締役が受賞の栄に浴された。

会長挨拶



磨会長

開会にあたり、日印産連の磨 秀晴会長は「日印産連は印刷産業の新しい価値を創造し、わが国の暮らしや文化を支える産業として、さらなる発展を目指して、会員 10 団体と力を合わせ、サプライチェーン全体でのパートナーシップの構築と、事業領域の拡大に向けた競争を推進して参ります」と挨拶した。

祝辞

来賓代表として、経済産業省 商務情報政策局 商務・サービスグループ 商務・サービス政策統括調整官の江澤正名氏が登壇し、次のような祝辞を述べた。

「日印産連は 2030 年のあるべき姿を見据え、紙の印刷業という枠を発展的に改めた新たな産業の構築に向け果たすべきミッション・ステートメントを掲げて、産業の発展に取り組まれていると承知しています。経済産業省としても省エネ補助金、中小企業省力化投資補助金といったところで支援策を提供し、皆さんの取り組みを最大限支援して参ります。

数年にわたる DX、GX の成長投資が芽吹き、名目 GDP を初めて 600 兆円の大台に乗せました。こうした流れを確実なものとして、賃上げと投資がけん引する成長型の社会に転換していくためにも、ぜひ生産



江澤氏

性を向上させ、物価高に負けない賃上げを実現してさらなる投資と消費につなげていかなければならないと考えています。

米国の関税等々、不確定要素も多い中でぜひお願いしたいのが、価格転嫁取引の適正化です。価格転嫁を実現して、賃上げと成長に結びつけるためには、まずは交渉のテーブルについて発注元と議論いただくことだと思っております。そうした場を通じて、発注元から積極的に賃上げの流れを作ってもらうことに取り組んでいただくことをお願いします」

日本印刷産業連合会表彰

日印産連設立 40 周年にあたる今年度は、印刷功労賞、印刷振興賞、特別賞に加え、日印産連 40 周年特別表彰として日印産連役員永年功労者、日印産連事業永年功労者、日印産連永年功労団体の 4 賞の表彰も執り行われた。



印刷功労賞を受賞した母里副会長（右から 3 番目）



印刷振興賞を受賞した富士特殊紙業の山口常務取締役（右から 3 番目）

40 周年特別表彰

日印産連役員永年功労者

氏名	所属企業	所属団体（在任年数計）
田島一彌	久米社	印刷工業会・全日本印刷工業組合連合会（計 26 年間）
下谷隆之	千修	印刷工業会（計 23 年間）
浅野 健	金羊社	全日本印刷工業組合連合会・印刷工業会（計 21 年間）

日印産連事業永年功労者

（プライバシーマーク・グリーンプリンティング事業）

氏名	会社・団体名
須田治樹	（旧）凸版印刷～グリーンプリンティング認定審査員
牧山嘉道	リップル法律事務所 弁護士、日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）プライバシーマーク審査委員会、日弁連・国際交流委員会

日印産連永年功労団体

団体名
印刷インキ工業会
環境保護印刷推進協議会
全国グラビア製版工業会連合会
日本印刷技術協会
日本印刷産業機械工業会
日本製紙連合会
日本洋紙板紙卸商業組合
日本洋紙代理店会連合会
日本 WPA（日本水なし印刷協会）
プリプレス&デジタルプリンティング機材協議会

印刷功労賞

氏名	会社役職名
富岡忠司	共同印刷 常務執行役員 生活・産業資材事業本部長
野口晴彦	TOPPAN 専務執行役員 生活・産業事業本部長
白橋明夫	白橋 代表取締役社長
土屋勝則	音羽印刷 代表取締役社長
添田秀樹	TOPPAN エッジ 相談役
尾形文貴	みつわ 代表取締役会長
宮地啓一	九秀製本ドットコム 代表取締役
坂本研一	九州クラフト工業 会長
母里圭太郎	平野屋物産 代表取締役
田中潤一郎	田中凸版 会長
中村清泰	東プリ 代表取締役

特別賞

団体名
大阪府印刷工業組合 理事長 高本隆彦

印刷振興賞

氏名	会社役職名
猪野正人	DNP グラフィカ 代表取締役社長
木田幸延	千修 執行役員 制作管理本部 本部長
道用雅浩	TOPPAN エッジ シニアアドバイザー
南 敏之	日本製紙リキッドパッケージプロダクト 江川事業所 製造部長
岩永寛毅	三省堂印刷所 代表取締役社長
岩渕 均	関東図書 代表取締役
筒井善樹	筒井紙業印刷 代表取締役社長
永野修一	北陽ビジネスフォーム 代表取締役会長
福田和寿	MCP 取締役製造本部長
本村豪経	アイメディア 代表取締役
渡邊辰美	あいわプリント 代表取締役社長
小木忠之	小澤製本 代表取締役
鶴田龍士郎	京都シールレーベル 代表取締役社長
山口圭介	富士特殊紙業 常務取締役
錦山慎太郎	共栄メディア 代表取締役社長
宮坂次郎	新興グラント社 専務取締役
工藤久敏	日本美術ライト商会 代表取締役

団体運営を通じて、印刷産業の発展向上に寄与した 11 名に印刷功労賞が、業務の進歩改善や多年にわたり業界指導などに貢献した 17 名に印刷振興賞が贈られた。全国グラビア協同組合連合会からは、印刷功労賞に母里圭太郎副理事長（㈱平野屋物産代表取締役）、印刷振興賞に山口圭介氏（富士特殊紙業㈱常務取締役）が表彰された。

受賞者代表謝辞

40 周年特別表彰日印産連役員永年功労者を受賞した㈱金羊社の浅野 健取締役会長が次のような謝辞を述べた。

「業界団体のお手伝いをするようになり、自分が世の中で一番苦勞していると思っていたのに、自分より苦勞されている方がいることを知りました。自社の営業からだけでは知



謝辞を述べる金羊社の
浅野取締役会長

り得ないことを教えてもらいました。特に、日印産連では歴代の会長、専務理事の皆さんと本当に良いご縁をいただいたことが財産です。東京生まれ、東京育ちの私にとっては全国各地の方とのご縁は本当にありがたいと思います。大事なのはこれからです。これからの日本の印刷産業をリードしてくれるはずの、私よりお若い方たちも目の前にいますが、安心してください。京極先生も講演でおっしゃっていたように、日本の印刷産業は大丈夫です。あなたたちがいるので明るいです。改めて日印産連の皆さんに御礼を申し上げ、感謝の言葉にしたいと思います。本日はありがとうございました」

懇親会



日印産連の堆副会長

午後6時からは懇親会が開催された。(一社)日本印刷産業連合会の堆 誠一郎副会長が次のような開会の挨拶を行った。「日印産連 40 周年および受賞者の皆様、本日はおめでとうございます。ついこの間、インターネットができたと思ったら IT、AI 等、生成 AI などは1 カ月ごとに性能が高くなっています。私たちの業界を取り巻くこうした環境の変化はずっと前からあり、それをクリアしてきて今の業界があります。さらにがんばっていかねばならないということで、日印産連、皆様の会社のご発展とご健勝を祈念いたします」

乾杯の発声



乾杯の発声を務めた
印刷インキ工業会の
横瀬副会長

乾杯の発声を務めた印刷インキ工業会の横瀬幸弘副会長は、「40 周年おめでとうございます。記念式典では当工業会は永年功労団体として賞を頂戴しました。賞状は事務所の目立つところに飾っておきたいと思いますので、お越しの際にはぜひご高覧ください。我々の業界を取り巻く環境は多くの課題に直面し、さらに変化していくことが予想されますが、新たな価値を生み出す大きなチャンスでもあります。皆様と共に力を結集し、この大きな変化を乗り越え、新たな時代に対応した付加価値を提供できるよう努力していきます」と杯を掲げた。来賓の参議院議員の牧山ひろえ氏と前衆議院議員の山田美樹氏も駆け付ける中、賑やかな歓談が広がった。

中締め



中締めは日本シール印刷協同組合連合会の
田中会長

中締めには、日印産連 10 団体の会長が登壇し、代表して全日本シール印刷協同組合連合会の田中 祐会長が「中締めを務めるのは3回目。通常は任期の間に1度回ってくるかどうかなのですが、こういった場でこういったお話をさせていただくのは幸せなことだと思います。受賞された皆様、おめでとうございます。諸先輩方のご尽力があってこそ今この業界が成り立っているわけであり、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします」と述べ、三本締めで盛会のうちに終了した。

懇親会 snapshot



組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合青年部

第4回青年部全国大会 in 関西を開催

報告者：OPI(株) 竹口誠太郎

2025年9月12日(金)～13日(土)、関東、東海、北陸、九州、および関西の各グラビア協同組合青年部より総勢80名の皆様にご参加いただき、兵庫県有馬温泉にて「第4回青年部全国大会」を開催しました。初日は講演会の後、懇親会で交流を深め、翌日は大阪・関西万博を訪問し、各単組間での親睦を深めました。

第4回青年部全国大会が関西の地で開催されました。前回(2023年11月)は、関東グラビア協同組合主催にて栃木県日光へ訪れ、心温まるおもてなしをいただきました。今回、関西グラビア協同組合では、それに負けないよう気合を入れて準備を進めて参りました。

初日、残暑とは言えない暑さの中、新大阪駅に集合し、バスで兵庫県有馬温泉へと向かいました。有馬温泉は日本三名泉、また日本三古泉の1つとして知られ、褐色の金泉と無色透明の銀泉が湧き出る、太閤秀吉が愛した温泉として有名です。宿泊した兵衛向陽閣は、創業700年の老舗旅館で、趣の異なる3つの大浴場があり、日頃の疲れを癒されたことと思います。



関西グラビア協組
青年部の吉田副部長

講演会では、関西グラビア協同組合青年部・吉田貴亮副部長(新生紙化工業(株))の司会進行のもと、元衆議院議員・杉村太蔵先生を講師にお迎えし、「人生、何が起きるかわからない!若い世代に伝えたい、タイゾー流キャリアと資産形成」と題してご講演いただきました。ご自身の生い立ちから歴代総理大臣との逸話まで、終始笑いが絶えず、さすがはプロ、と楽しくも感銘を受けるお話ばかりでした。質疑応答では「次の自民党総裁は?」との質問もありました。本GP JAPAN発行時には結果が出ているので、楽しみにしたいと思います。

懇親会では、関西グラビア協同組合青年部・竹下 元副部長(株ダイコー)が司会を務め、開宴挨拶として全国グラビア協同組合連合会・田口 薫会長(大日本パッケージ(株))よりお話をいただきました。「フルコスト主義のすすめ」として、設備投資や修繕費用も出ない単価のままでは、軟包材業界のサプライチェーンが途切れてしまうという危機感を共有し、製販一体の改善と受注内容の見直しが急務であることを改めて認識する機会となりました。



講演会に登壇した杉村氏



講演会の様子



関西グラビア協組
青年部の竹下副部長



全国グラビア協同組
合連合会の田口会長



関西グラビア協組の
高桑理事長



東海グラビア印刷
協組青年部の
大川副部長

乾杯の音頭は、関西グラビア協同組合・高桑真樹理事長（株ダイドー）により行われ、懇親会が始まりました。中盤には、各単組青年部部長による挨拶の時間が設けられ、関西グラビア協同組合・堀川 孟部長（日新シール工業株）、関東グラビア協同組合・原 卓実部長（三洋グラビア株）、東海グラビア印刷協同組合・後藤大輝部長（中京化学株）、九州グラビア協同組合・森 一敏部長（有染原化工）、そして北陸グラビア協同組合・賀谷壮佑様（賀谷セロファン株）より、各々の色を出したご挨拶をいただきました。

盛り上がりの冷めない中、東海グラビア印刷協同組合青年部・大川忠祐副部長による中締めにて懇親会を終えました。その後の二次会にもほとんどの方にご参加いただき、親睦を深めていただけたと思います。



関西グラビア協組
青年部の堀川部長



関東グラビア協組
青年部の原部長



東海グラビア印刷協組
青年部の後藤部長



九州グラビア協組
青年部の森部長



北陸グラビア協組
青年部の賀谷氏



関西名物、関西グラビア協組青年部の吉田副部長による万歳三唱

2日目は大阪・関西万博（夢洲）へ向かい、各自自由行動としました。閉幕までちょうど1カ月となった当日は、来場者数が最多を更新（翌日の速報値では22万7000人）するほどの大混雑で、パビリオン予約は困難でしたが、皆様それぞれに“大人の遠足”を楽しんでいただけたことと思います。個人的には、ポルトガル館で吉村洋文大阪府知事の視察に偶然遭遇し、思いがけない良い思い出となりました。

皆様のご協力のもと、無事に新大阪駅で解散となりました。各地の会員同士の親睦と交流を深め、業界全体の課題を改めて共有し、これからの業界の発展を誓い合う、大変有意義な大会となりました。



大阪・関西万博会場にて

懇親会 snapshot



二次会



大阪・関西
万博



－ 関東グラビア協同組合 －

業界発展と環境負荷低減へ 挑戦を続ける DANGAN フィルム

報告者 DANGANフィルム(株) フィルム開発部 多田 直子

液体包装フィルムと充填機の両輪で未来を拓く

当社グループは、1966 年に大成包材(株) (現・大成ラミックグループ(株)) として創業し 60 周年を迎えました。1992 年に液体充填機「DANGAN」を発売して以来、液体包装フィルムと充填機の両方を提供できる唯一のメーカーとして、研究と実績に裏打ちされた技術で社会に貢献してまいりました。

今年 4 月には、さらなる企業価値の向上と持続的成長を見据え、持株会社体制へ移行し、当社は「DANGAN フィルム(株)」として新たなスタートを切りました。

顧客第一の精神で環境と技術革新に挑む



代表取締役社長
富田一郎

このたび DANGAN フィルムは、関東グラビア協同組合に加入しました。

富田一郎社長は「分社化により会社が 3 つに分かれ専門のコンバーターになった中で、横のつながりを作り、お互いの業界発展に貢献していきたい」と抱負を語ります。

入社 36 年を経ても変わらず根幹にあるのは「顧客第一主義」です。お客様の要望に真摯に応えることが成長の原点であり、社員 1 人ひとりが課題を「自分ごと」として捉え、不測の事態にも迅速に対応する文化を守り続けています。

昨今、プラスチック製品への視線が厳しくなる中、当社は環境負荷低減を最重要課題と位置付けています。環境配慮型素材の採用や廃プラスチックのケミカルリサイクルに積極的に取り組む一方で、ロボットや最新の IT 技術を積極的に導入し、工場の自動化を推進。「環境×効率」を両立させる新たな生産体制の構築を進めています。

さらに富田社長は「分社化でコンパクトになった組織を活かし、社員間のコミュニケーションを密にして柔軟で迅速な経営を実現していきたい」と語ります。顧客第一の精神を礎に、多様化・自動化・環境対応を両立させ、未来に向けて挑戦を続ける姿勢に、私たちも歩調を合わせ、共に成長していきたいと考えています。

当社の取り組み

◎製版工場

2024年に増改築した製版工場は銅メッキ加工工程にロボットを導入し、彫刻〜クロムメッキ加工までの工程を完全自動化することで作業者の負担軽減を実現しました。



◎白岡第2工場

FSSC22000を取得し、輸出対応可能な当工場内は、原反の移動をAGV（無人搬送車）が担い、省人化による作業負荷の軽減と効率的な運用を実現しています。



◎品質保証

お客様に「安心・安全」な製品をお届けするため、出荷前に全ての製品を検査しています。直接消費者の手に渡る小袋だからこそ、欠かすことのできない重要な工程です。



環境対応について

当社は2024年にISCC認証を取得し、マスバランス製品の市場投入に向けて準備を進めています。また、当社の開発品は毎年6月に行われるFOOMA JAPANと、10月に行われているJAPAN PACK、TOKYO PACKでもご紹介しています。ご興味をお持ちの方は、ぜひとも当社ブースへお立ち寄りください。



＜取組の一例＞

・バイオマスフィルム（上市済み）

シーラントに使われるポリエチレン樹脂の一部を植物残渣由来の樹脂に置き換えた製品です。日本有機資源協会のバイオスマーク「PE20%」を製品に表示することができます。

・バイオマスインキ

一部製品を除き、自社で使用するインキを「バイオマス度 10%」のグレードに移行しました。

・薄肉化フィルム

当社の独自技術を活用し、従来品と比較して「原材料の使用量を約 3 割削減」しながらも、必要な物性を維持できる製品の開発を進めています。

当社は約 20 年前から環境マネジメントシステム ISO14001 を取得しており、環境負荷を低減するべく努めています。毎年環境目標を定め、CO₂ 排出量、エネルギー使用量、廃棄物量を削減するため、部門ごとに目標を抽出して取り組みを行っています。

フィルム開発部門では、環境問題に適応した製品を市場展開するために日々研究を重ねています。

編集後記

筆者は大成ラミックグループに入社してまだ数年の新参者ですが、最初に驚いたのは「従業員の人の良さ」でした。本社・工場がある埼玉県北東部はのんびりした土地柄。その空気のせいか、従業員も穏やかで温かい人が多く、初日から「この会社は胃薬なしでもやっていけそうだ」と感じたほどです。

当社が手掛ける液体小袋用フィルムは、暮らしに欠かせない存在。小袋がなければ調味料もスープも行き場を失ってしまいます。だからこそ私たちは、“人々の食卓を守る縁の下”の力持ち”として、安心・安全・便利な製品をお届けしてまいります。



DANGANフィルム株式会社

代表取締役社長：富田一郎

創業：2025 年 4 月 1 日

本社所在地：埼玉県白岡市

生産拠点：製版工場、白岡第 1 工場、
白岡第 2 工場、白岡第 3 工場

従業員数：321 名

事業内容：液体包装フィルムの開発・
製造など



白岡第 2 工場：「FSSC22000」認証工場

講演会抄録

2025 年 9 月印刷の月、講演会に京極夏彦氏が登壇

2025 年 9 月 11 日（木）に執り行われた「2025 年 9 月印刷の月」記念式典に先立ち、午後 3 時 30 分より小説家の京極夏彦氏を迎え、「印刷文化－印刷メディアの可能性」と題した講演会が開催された。ここではその抄録を掲載する。



今期より印刷博物館館長を拝命しましたが、本来は小説家であり様々な印刷物に囲まれて暮らしてきました。皆様のお仕事によって生活が支えられているので、この業界の皆様には頭が上がりません。

9 月 3 日は日本の活字活版印刷の父とも言われる本木昌造氏の命日でした。しかし、一般の人たちは本木氏の名前も業績も知りません。印刷がいかに私たちの生活文化を支えてきたのかということに対してあまりにも無自覚で、非常に残念なことです。

情報化と言われて久しいですが、情報化とはものが情報に化ける、化けるものの量が多くなるということ。例えば、コップに汲んだ水は量が多いか少ないか程度のことしか分かりません。しかし、水を計量カップに入れることで初めて「5cc」「10cc」という情報に転換します。情報にするためには物事を分割しなければいけません。また、1 つのものをいくつかに分ける形で情報化してそれを認識

することがデジタルの基本であり、最初のデジタル化は言葉であり、さらにそれを補強するのが文字です。情報を複製するためには筆写するしかない時代が長く続きましたが、文字を正確、大量に複製できる技術として生まれたのが印刷です。

日印産連が 40 周年ということですが、なぜこの団体が設立されたのか。横のつながりを持ち、お互いの業態業種を尊重し手を携えて、エンドユーザーのためにより良い製品を作っていこうということだったのではないかと私は想像しています。手を携えて、頭を巡らせて、先のことを考えれば必ず道は開けるはずです。

印刷はチラシやパッケージなど、部品ではなく完成品をエンドユーザーに届ける業態で、そこが他の町工場との違いです。現在、日印産連の会員企業も減っていると聞きますが、印刷は決して斜陽産業ではなく、確実に先を担うべき産業であることを理解してほしいです。メディアは変わるかもしれませんが、印刷という概念自体は今後も変わらないということをぜひ覚えておいてほしいと思います。